

第5章:日本における外国人家族の子育て状況

岩永理恵(神奈川県立保健福祉大学)・四方理人(関西大学)

要旨

本稿では、厚生労働省が実施する「21世紀出生時縦断調査」を用いて、在日外国人の家族の状況、子育ての状況、教育の状況を明らかにする。親の国籍によらず、世帯類型では夫婦のみの世帯、子ども0歳児の保育者は母親、母の労働時間なし、の割合が多く、母の就業形態が常勤である割合は全体的に低い。育児負担については、母の国籍によって負担感が相対的に重いとされる項目はあるものの、親の国籍の組み合わせによる大きな違いはみられなかった。一方、親の国籍の組み合わせによる違いが大きいと思われるのは、父の就労状況、「常勤」や「パート・アルバイト」の割合、両親の所得である。

親の国籍の組み合わせによって、収入と就労の状況に違いはあるものの、育児の負担感については大きな差がみられない。このことには、本稿で用いたデータの制約が大きく影響していると考えられる。すなわち、ブラジル国籍の外国人を捕捉できておらず、調査回答者は、相対的に日本での居所・生活が安定していて、日本社会に包摂されている、日本語の読み書き能力の高い人が多いと思われる。この限界は大きいですが、従来明らかにされてこなかった外国人の生活実態の一端を論じた意義は大きいと考える。

1. はじめに

法務省入国管理局が2013年3月18日に公表した「平成24年末現在における在留外国人数について(速報値)」によれば、日本に長期的に滞在する外国人数は、2012年末に約203万人である。外国人数の日本の総人口1億2746万人(総務省統計局発表の2013年1月1日現在概算値)に占める割合は1.6%である。この数字は、OECD諸国のなかでも最低水準であり(International Migration Outlook 2012, TableA.1.5)、その数は決して多くない。

在日外国人は文字通り「マイノリティ」であり、それは公的統計の扱いにもあらわれている。たとえば、外国人労働者はしばしば社会問題化するが、ほとんどの公的統計では国籍別データを公表しておらず、外国人の仕事の状況はわずかに入管統計や国勢調査からうかがい知れる程度であるという(高谷幸他 2013a)。第3節に詳述するように、外国人の子ども、その教育についても同様の状況であり(高谷幸他 2013b)、総じて外国人の生活実態はいまだ十分に明らかにされていない。

そこで本稿では、厚生労働省が実施する「21世紀出生時縦断調査」を用いて、在日外国人の家族の状況、子育ての状況、教育の状況を明らかにする。父母のどちらか(も)が外

国人の家族と、父母ともに日本人である家族とを比較し、父母のどちらか（も）が外国人の家族が、子育て上の問題を抱えているか検討する。

次節で「21世紀出生時縦断調査」と使用データについて説明したうえで、第3節では、先行研究を踏まえながら本稿で用いるデータの特徴を検討する。あらかじめ断っておけば、データの制約があって、本稿が在日外国人の家族の全体状況を明らかにしているとは言い難い。とはいえ、先に述べた通り、外国人の生活状況を明らかにする第4節以降の内容は貴重であり、終わりに本稿の意義と限界をまとめる。

2. 使用データについて

「21世紀出生時縦断調査」は、厚生労働省が次の目的が実施している調査である。同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査として、平成13年度から実施している統計調査であり、21世紀の初年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等の施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

調査対象は、全国の2001年1月10日から同月17日の間及び同年7月10日から同月17日の間に出生した子を対象であり、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。調査結果は第1回から第10回までである。調査項目は、同居者、学校生活のようす、起床時間・就寝時間、食事のようす、習い事等の状況、1か月の子育て費用、病気やけが、身長・体重、父母の就業状況などである¹。

表1は、調査回答者（第1回）の概要である。回答者が母親の割合は、「両親韓国・朝鮮」で87.3%であり、「両親日本」の88.3%とほぼ同じであるが、「父日本、母韓国・朝鮮」で77.0%、「両親中国」で70.0%、「父日本、母中国」で40.7%となり、「父日本、母タイ・フィリピン」では7.4%となっている。「父日本、母タイ・フィリピン」では、回答者が父親の割合が81.4%となっている。

表1 調査回答者（第1回）

	母親	父親	両親とも	その他	%	N
両親日本	88.3	7.2	4.1	0.4	100	(45324)
父日本、母韓国・朝鮮	77.0	16.8	6.2	0.0	100	(113)
父日本、母中国	40.7	50.7	6.4	2.1	100	(140)
父日本、母タイ・フィリピン	7.4	81.4	7.4	3.9	100	(204)
両親韓国・朝鮮	87.3	7.6	5.1	0.0	100	(79)
両親中国	70.0	17.1	7.1	5.7	100	(70)
その他	86.3	6.9	4.2	2.7	100	(262)
計	87.8	7.7	4.1	0.4	100	(46192)

¹ 以上の情報は、厚生労働省ホームページ<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-9.html>（2013年5月25日アクセス）より引用。

この結果には、日本に居住する外国人のルーツの違いがあらわれていると考えられる。つまり、次に述べるオールドカマーの子孫かニューカマーかによって日本語の読み書きに差があると考えられる。おそらくニューカマーが多くを占める順に回答者が父親である割合が大きくなると考えられる。

法務省入国管理局が 2013 年 3 月 18 日に公表した「平成 24 年末現在における在留外国人数について（速報値）」によれば、日本に長期的に滞在する外国人数は、2012 年末に約 203 万人、このうち、特別永住者が約 38 万人、中長期在留者が約 165 万人である²。特別永住者が多くを占める、日本の植民地支配と第二次世界大戦を契機として来日、強制連行された在日韓国・朝鮮人や在日中国人は、一般にオールドカマーと呼ばれる。これに対し、1970 年代から流入を開始し、定住化している外国人は、ニューカマーと呼ばれる。ニューカマーの流入には、大きく見て 3 つの時期に区分され、それぞれいくつかの流入形態があり、概要を表 2 に示した（駒井洋 1997）。ニューカマーの特徴として中国やフィリピンからの女性の流入があり、「父日本、母中国」、「父日本、母タイ・フィリピン」の母は、それに該当する人びとが多く含まれていると

表 2 ニューカマー流入の三つの時期とその特徴

第 1 期 1970 年代末～1980 年代前半	①風俗関連産業に従事する、フィリピン、韓国、タイからの女性外国人労働者 ②ベトナム、カンボジア、ラオスからのインドシナ難民 ③中国帰国者 2 世・3 世 ④欧米系ビジネスマン
第 2 期 1980 年代後半からバブル経済崩壊後の 1990 年代初頭	①非正規、低賃金の外国人労働者 ②ラテンアメリカからの日系人の低賃金労働者 ③中国人を主とした留学生、就学生
第 3 期 1990 年代初頭	①国際結婚（オールドカマーと日本人を別にすれば、日本人男性の場合フィリピン人女性と中国人女性の、日本人女性の場合アメリカ人男性と中国人男性との結婚が著増） ②日本企業の外国人雇用

駒井洋編（1997）『新来・定住外国人がわかる事典』明石書店：12-15

² http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00013.html

3. 先行研究

管見の限り、公的統計により外国人家族の子育て状況を明らかにした先行研究は見当たらない。子どもの状況を捕捉するもっとも有力な調査は、教育に関するものと思われるが、「日本ではエスニック・マイノリティの教育に関するセンサスが未整備」(高谷幸、大曲由起子、樋口直人、鍛冶致 2013a) であるという。(高谷幸、大曲由起子、樋口直人、鍛冶致 2013a)らは、その未整備な状況を補うべく、2005 年国勢調査のデータを用いて、外国人親と暮らす子どもの総人口を両親の国籍別に推計し、持ち家と親の仕事に注目してその家庭背景などを明らかにした。

同論文から、両親の国籍別の子どもたちの人口規模を引用したのが、表 3 である。

表 3

表 3 親の国籍別、55歳未満の母と同居する子の人口および55歳未満の父と同居する父子家庭の子の人口 (2005年)
(単位: 人)

		父 (全 年 齢) の 国 籍									(母子のみ)
		日本	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ブラジル	ペルー	他 (含不詳)		
55 歳 未 満 母 の 国 籍	日本	24,188,569	33,755	8,582	1,274	624	2,732	1,373	33,517	(1,193,413)	
	韓国・朝鮮	35,201	69,036	80	0	51	40	10	251	(11,006)	
	中国	34,483	312	30,150	0	0	40	0	330	(3,384)	
	フィリピン	74,109	211	31	3,232	0	553	132	508	(8,202)	
	タイ	11,534	71	0	0	517	111	10	51	(734)	
	ブラジル	4,885	0	0	10	20	40,460	503	354	(2,230)	
	ペルー	1,431	0	0	0	0	401	8,595	312	(611)	
	他 (含不詳)	24,564	100	70	51	41	150	212	17,226	(1,994)	
	(父子のみ)	(131,864)	(858)	(230)	(80)	(10)	(301)	(40)	(281)	—	

注: 一人親家庭の子どもは全員20歳未満だが、それ以外の家庭の子は20歳以上の者を含む。「子ども3人以上」の親には3.1人の子がいると仮定して集計。出典: 2005年国勢調査オーダーメイド集計。

表 3 によると、日本人父とフィリピン人母と暮らす子どもが 74,109 人と最も多く、次いで韓国・朝鮮人の両親と暮らす子どもが 69,036 人、ブラジル人の両親と暮らす子どもが 40,460 人となっている。

この結果は、表 1 調査回答者 (第一回) とはかなり異なる。本調査で最も回答者数が多いのは韓国・朝鮮人の両親、次いで日本人父とタイ・フィリピン母、そして日本人父と中国人母である。国勢調査では三番目に数が多いブラジル人両親は、本調査の回答者では「その他」にわずかに含まれるのみである。国勢調査における外国人居住者数は、同年の外国人登録者数と比較して少なく約 78% であり、その捕捉率も国籍ごとに大きく異なり、分析にあたって注意が必要であるといわれるが(大曲由起子他 2011)、その国勢調査の結果に照らしても本調査の回答者の属性には偏りある。

回答者が偏った理由は、推測の域を出ないが、日本での居所が安定している、調査の意義を理解し回答可能である、長文の日本語を読みこなせる、などの要因が影響したと考えられる。居所が不安定なために調査対象に選出されにくいとか、日本人父の回答率が高いことからみても、調査回答に語学力が与える影響は大きいと思われる。さらにいえば回答者は、相対的に日本での居所・生活が安定している、日本社会に包摂されている、日本語

の読み書き能力が高い、といった人たちが含まれているのではないかと考える。

この推測は、本調査で最も捕捉できていないブラジル国籍の外国人に着目した先行研究に照らせば、ある程度妥当であると考えられる。ブラジル国籍の外国人に着目した研究には一定の蓄積がある。研究の多い理由には、いくつかの地域に集住し、職場や住居が日本社会と隔離され、日本語の能力の制約なども加わって、日本人と対等な関係を結べない、というような問題を抱えていることが挙げられている(駒井洋編 1997)。

特に子どものいる家族という点でみると、日本語能力の獲得、さらに教育は重要なテーマである。言語の獲得に関しては、日本の学校は同化主義的であるという指摘がつとになされてきた。子どもの社会的・経済的・文化的ギャップを補う教育が実施され、彼らの問題は日本語能力の不足にあり、十分な日本語能力を得ることが「問題」解決の唯一の方法として考えられている(石井由香 2003)。

他方で、教育は社会移動のための有力な手段であり、子どもの進路は親の描いている将来像に影響されることになる(石井由香 2003)。たとえば、日系南米人の日本での滞在目的は「お金を稼ぐこと」であり帰国と永住のはざまに揺れているケースが多く、インドシナ難民は生命の危険がない日本に「安住」しようとしており、韓国系ニューカマーの場合は、成功のチャンスに満ちた隣国である日本で挑戦したいという意識が強いという(志水宏吉・清水睦美 2001)。

このような意識は、本稿で論じる子育て上の問題を抱えているかどうかにも影響しよう。つまり、良し悪しは別にして、日本への同化志向が強く、かつ円滑に同化している場合は、国籍の違いによる問題を抱えることは少ないであろう。また、日本への同化志向が薄い場合は、問題は少なくなるかもしれない。以上のことを念頭におき、データをみていくことにしよう。

4. 家族の状況

家族の状況について、まずは「表 1 世帯類型(第 1 回)」により世帯類型をみてみよう。「夫婦のみ」が最も多く、「両親韓国・朝鮮」で 84.8%であり、「父日本、母韓国・朝鮮」で 82.8%、「両親中国」で、81.9%、「両親日本」で 77.5%、「父日本、母タイ・フィリピン」で 66.3%、「父日本、母中国」で 61.0%である。次に「夫婦と祖父母」の世帯が、「父日本、母中国」で 31.9%、「父日本、母タイ・フィリピン」22.4%、「両親日本」で 13.6%である。「母タイ・フィリピン」では三世代同居の割合が多い。

表 4 世帯類型(第 1 回)

	夫婦のみ	夫婦と祖父母	母子世帯	同居母子世帯	同居父子世帯	その他	Total
両親日本	77.5	13.6	0.4	0.4	0.0	8.1	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	82.8	9.5	1.7	0.0	0.0	6.0	100.0
父日本、母中国	61.0	31.9	1.4	0.7	0.0	5.0	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	66.3	22.4	1.0	0.5	0.0	9.8	100.0
両親韓国・朝鮮	84.8	11.4	0.0	0.0	0.0	3.8	100.0
両親中国	81.9	12.5	0.0	1.4	0.0	4.2	100.0
その他	79.8	5.3	1.9	3.0	0.0	9.9	100.0
計	77.4	13.6	0.4	0.4	0.0	8.1	100.0

次に就労状況についてみてみよう。父の就業形態が「常勤」であるのは、「両親日本」では一貫して 80%を超えているのに対し、「父日本、母韓国・朝鮮」では 70%台、「父日本、母中国」で 70%前後、「両親韓国・朝鮮」では 50%前後となっている。父の就業形態が「パート・アルバイト」である割合は、「両親中国」で子どもが 0 歳～4 歳、6 歳の時に、「父日本、母タイ・フィリピン」で子どもが 9 歳の時に相対的に高いが、その他の国籍の組み合わせの場合は低くなっている(図 1、図 2)。

図 1 父の就業形態(常勤)

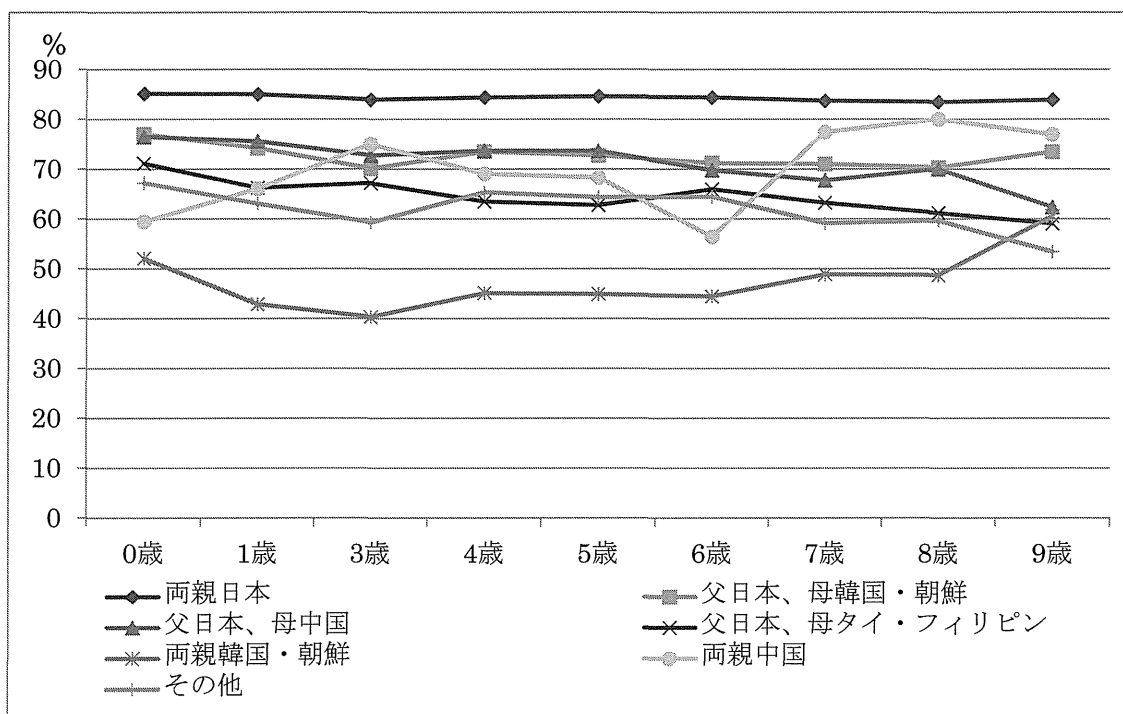
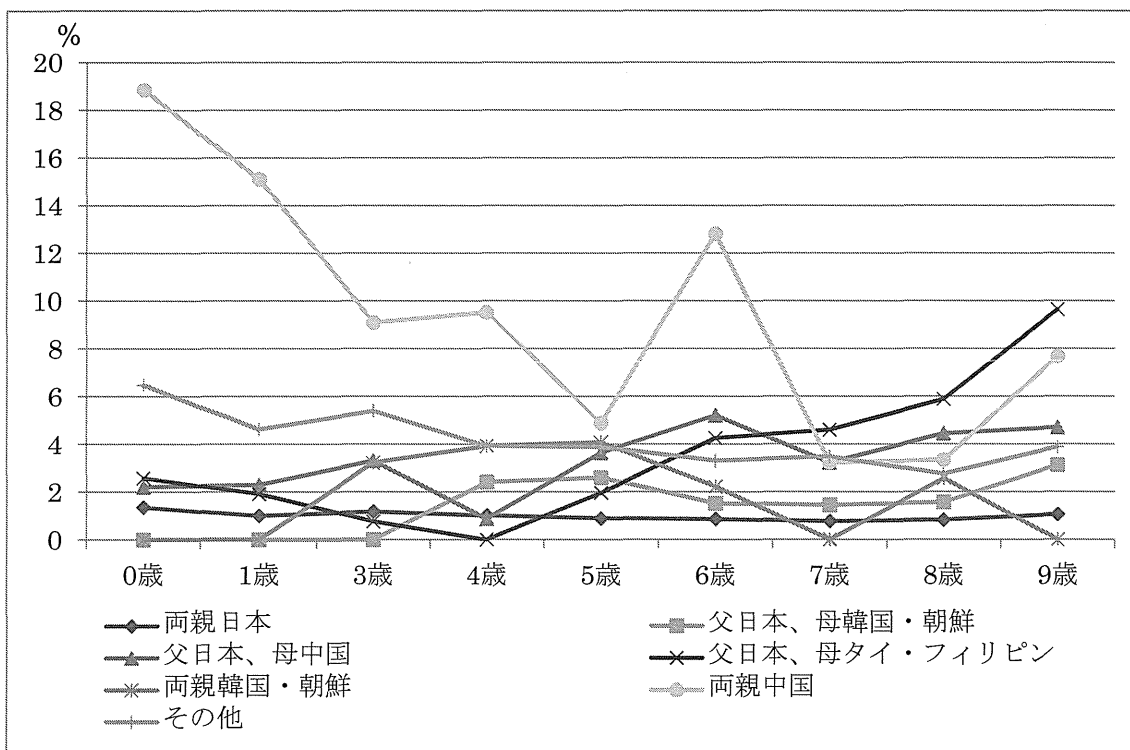


図 2 父の就業形態(パート・アルバイト)



一方で、父の労働時間を「子ども 0 歳」「子ども 4 歳」「子ども 9 歳」の時点でみてみたのが「表 5」～「表 7」である。父の労働時間は、子どもの年齢や親の国籍によらず、全体として 40 時間以上が多い。ただし、「両親中国」の場合は、子ども 0 歳時の労働時間は相対的に少ない。

表 5 父の労働時間(子ども 0 歳)

	なし	20 時間 未満	20 時間 以上 40 時間未 満	40 時間 以上 60 時間未 満	60 時間 以上	
両親日本	2.1	4.8	8.3	58.3	26.6	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	1.9	8.3	13.0	51.9	25.0	100.0
父日本、母中国	3.8	5.3	11.4	57.6	22.0	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	4.2	9.5	7.4	59.3	19.6	100.0
両親韓国・朝鮮	5.7	15.7	2.9	54.3	21.4	100.0
両親中国	9.5	11.1	23.8	42.9	12.7	100.0
その他	6.1	9.1	13.0	53.2	18.6	100.0
計	2.1	4.9	8.3	58.3	26.4	100.0

表 6 父の労働時間(子ども 4 歳)

	なし	20 時間 未満	20 時間 以上 40 時間未 満	40 時間 以上 60 時間未 満	60 時間 以上	
両親日本	1.2	1.7	7.8	61.1	28.2	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	3.7	3.7	7.4	58.0	27.2	100.0
父日本、母中国	3.4	6.0	11.2	56.9	22.4	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	4.7	3.1	12.5	64.1	15.6	100.0
両親韓国・朝鮮	1.7	6.8	11.9	52.5	27.1	100.0
両親中国	7.5	5.0	15.0	57.5	15.0	100.0
その他	5.0	2.5	15.7	52.8	23.9	100.0
計	1.2	1.8	7.9	61.0	28.1	100.0

表 7 父の労働時間(子ども 9 歳)

	なし	20 時間 未満	20 時間 以上 40 時間未 満	40 時間 以上 60 時間未 満	60 時間 以上	
両親日本	0.9	1.0	7.2	61.7	29.3	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	0.0	3.2	6.5	59.7	30.6	100.0
父日本、母中国	3.3	3.3	6.5	62.0	25.0	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	2.2	0.0	15.6	67.8	14.4	100.0
両親韓国・朝鮮	2.3	4.5	15.9	43.2	34.1	100.0
両親中国	24.3	0.0	18.9	37.8	18.9	100.0
その他	1.7	2.6	17.2	54.3	24.1	100.0
計	0.9	1.0	7.3	61.6	29.2	100.0

母の就業形態が「常勤」である割合は、「両親日本」では 15%から 19%程度、「父日本、母韓国・朝鮮」では 6%～11%程度である。「父日本、母中国」、「両親中国」では、子どもの年齢が上がるにつれ徐々に「常勤」の割合が高くなってきているように見て取れる。母の就業形態が「パート・アルバイト」である割合は、子どもの年齢が高くなるにつれ高くなる。「両親日本」では、「子ども 0 歳」4.1%から「子ども 9 歳」39.5%、「父日本、母タイ・フィリピン」では「子ども 0 歳」6.8%から「子ども 9 歳」51.9%となっている。(図 3、図 4)

図 3 母の就業形態(常勤)

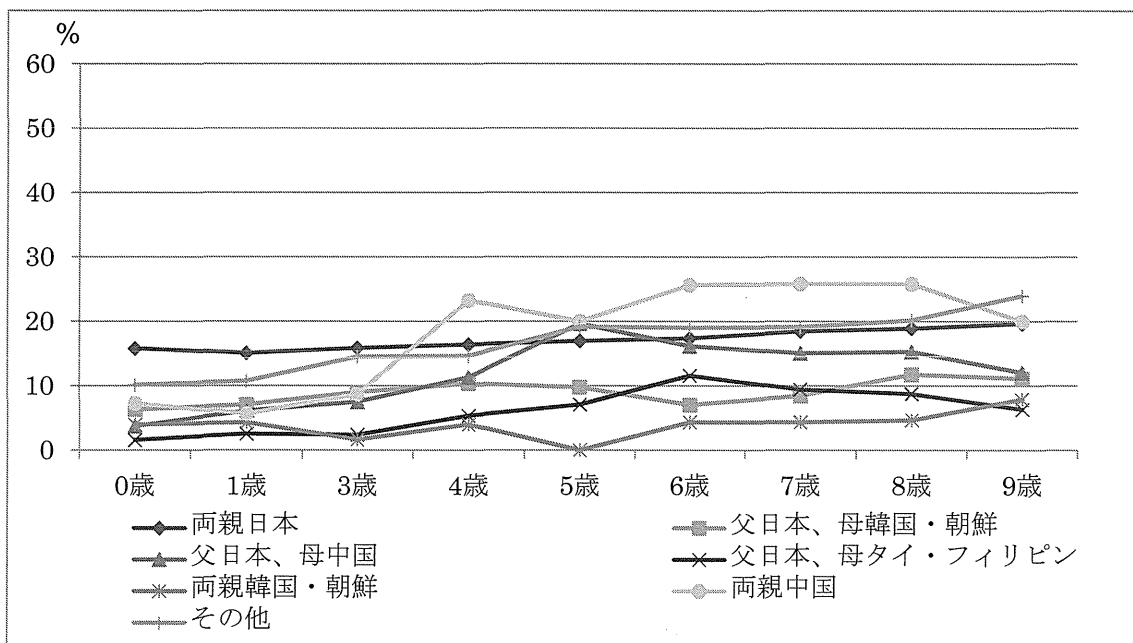
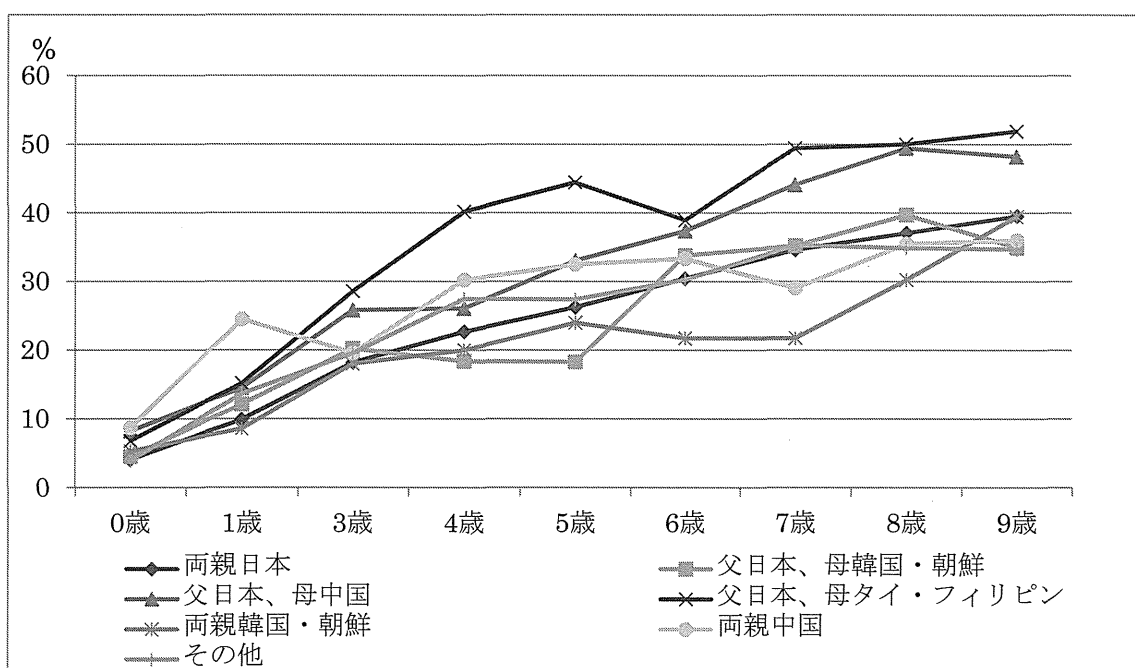


図 4 母の就業形態(パート・アルバイト)



「表 8 母の労働時間(子ども 0 歳)」をみると、親の国籍にかかわらず「なし」が最も多く、80%を超えている。「表 9 母の労働時間(子ども 4 歳)」でも「なし」が最も多いが、「表 10 母の労働時間(子ども 9 歳)」では、「なし」と「20 時間以上 40 時間未満」が同じくらいの割合となっており、「図 4 母の就業形態(パート・アルバイト)」にみたパート・アルバイトの増加傾向と一致する。

表 8 母の労働時間(子ども 0 歳)

	なし	20 時間 未満	20 時間 以上 40 時間未 満	40 時間 以上 60 時間未 満	60 時間 以上	
両親日本	86.5	4.9	4.5	3.7	0.3	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	85.7	5.4	4.5	4.5	0.0	100.0
父日本、母中国	86.1	5.8	7.3	0.7	0.0	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	86.0	6.7	5.2	2.1	0.0	100.0
両親韓国・朝鮮	82.9	9.2	5.3	2.6	0.0	100.0
両親中国	84.3	7.1	4.3	2.9	1.4	100.0
その他	84.0	4.7	5.5	5.1	0.8	100.0
計	86.5	4.9	4.6	3.6	0.3	100.0

表 9 母の労働時間(子ども 4 歳)

	なし	20 時間 未満	20 時間 以上 40 時間未 満	40 時間 以上 60 時間未 満	60 時間 以上	
両親日本	54.2	12.2	19.7	13.0	0.9	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	60.9	13.8	13.8	10.3	1.1	100.0
父日本、母中国	53.9	11.3	19.1	13.0	2.6	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	47.3	11.6	28.6	11.6	0.9	100.0
両親韓国・朝鮮	58.0	10.0	28.0	4.0	0.0	100.0
両親中国	40.5	9.5	33.3	16.7	0.0	100.0
その他	49.4	12.3	25.9	11.7	0.6	100.0
計	54.2	12.2	19.8	12.9	0.9	100.0

表 10 母の労働時間(子ども 9 歳)

	なし	20 時間 未満	20 時間 以上 40 時間未 満	40 時間 以上 60 時間未 満	60 時間 以上	
両親日本	33.1	19.0	30.2	16.6	1.1	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	39.7	14.3	33.3	11.1	1.6	100.0
父日本、母中国	33.3	17.9	30.8	16.7	1.3	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	32.1	7.7	43.6	16.7	0.0	100.0
両親韓国・朝鮮	42.1	23.7	26.3	7.9	0.0	100.0
両親中国	40.0	4.0	40.0	16.0	0.0	100.0
その他	27.5	15.8	36.7	19.2	0.8	100.0
計	33.1	18.9	30.3	16.6	1.1	100.0

「表 11 両親の所得(平均値)」をみると、子ども 0 歳で多い順に、「両親日本」505 万円、「父日本、母韓国・朝鮮」500 万、「父日本、母中国」450 万、「父日本、母タイ・フィリピン」450 万であり、「両親中国」285 万と相対的に少ない。ただし、「表 12 両親の所得(中位値)」でみると、子ども 0 歳で多い順に「両親韓国・朝鮮」610 万、「両親日本」566 万、「父日本、母韓国・朝鮮」555 万、「父日本、母タイ・フィリピン」498 万、「父日本、母中国」468 万、「両親中国」342 万となっている。

表 11 両親の所得(平均値)

	0 歳	1 歳	3 歳	4 歳	6 歳	9 歳
両親日本	505	500	509	532	600	620
父日本、母韓国・朝鮮	500	451	490	530	661.5	615
父日本、母中国	450	450	480.5	500	521	520
父日本、母タイ・フィリピン	450	450	450	500	487	500
両親韓国・朝鮮	400	420	480	442	500	509
両親中国	285	321	378	371	400	500.5
その他	431	393	447	493	547	539.5
計	500	498	506	530	600	620

表 12 両親の所得(中位値)

	0 歳	1 歳	3 歳	4 歳	6 歳	9 歳
両親日本	566	541	587	610	671	700
父日本、母韓国・朝鮮	555	504	623	616	748	659
父日本、母中国	468	477	512	540	561	580
父日本、母タイ・フィリピン	498	496	528	512	533	553
両親韓国・朝鮮	610	545	717	638	738	862
両親中国	342	372	435	442	586	568
その他	531	533	569	619	713	717
計	565	540	587	609	670	699

最期に「表 13 父学歴」「表 14 母学歴」をみると、「両親日本」は父母ともに「高校」以上の学歴が 9 割以上を占める。「父日本、母タイ・フィリピン」の場合は、父母ともに「中学」「高校」までの学歴が 6 割以上で、低学歴の傾向にある。「両親中国」は、父母ともに「大学・大学院」が 4 割を超えるのに対し、「中学」の学歴であるものが父 33.3%、母 27.5%と二極化している。

表 13 父学歴

	中学	高校	専門・専 修学校	短大・高 専	大学・大 学院	Total
両親日本	6.8	39.8	14.0	3.1	36.4	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	7.1	49.0	11.2	3.1	29.6	100.0
父日本、母中国	7.7	34.6	20.8	5.4	31.5	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	12.6	50.9	18.2	1.3	17.0	100.0
両親韓国・朝鮮	5.7	40.0	11.4	0.0	42.9	100.0
両親中国	33.3	15.7	3.9	2.0	45.1	100.0
その他	13.9	34.8	9.5	2.5	39.3	100.0
計	6.8	39.8	14.0	3.1	36.3	100.0

表 14 母学歴

	中学	高校	専門・専 修学校	短大・高 専	大学・大 学院	Total
両親日本	3.8	39.3	19.3	23.9	13.8	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	5.1	45.9	22.4	13.3	13.3	100.0
父日本、母中国	14.6	34.6	22.3	10.0	18.5	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	15.4	48.7	11.5	7.1	17.3	100.0
両親韓国・朝鮮	1.4	45.7	14.3	24.3	14.3	100.0
両親中国	27.5	19.6	11.8	0.0	41.2	100.0
その他	9.3	37.3	17.2	14.2	22.1	100.0
計	3.9	39.3	19.2	23.7	13.9	100.0

5. 育児の状況

「表 15 保育者(子ども 0 歳)」をみると、親の国籍によらず「母親」が多く、「父日本、母韓国・朝鮮」で 93.1%、「両親韓国・朝鮮」で 92.4%、「両親日本」で 92.2%、「父日本、母中国」で 91.5%、「父日本、母タイ・フィリピン」で 89.8%、「両親中国」で 79.5%である。「両親中国」は「祖父母」が 11.0%、「保育所」が 6.8%とややその割合が多い。「表 16 保育者(子ども 4 歳)」をみると、親の国籍によらず、「保育所」「幼稚園」の割合が高くなり、「母親」の割合も 5 割前後となっている。

表 15 保育者(子ども 0 歳)

	母親	父親	祖父母	保育所	その他	Total
両親日本	92.2	0.1	3.8	3.5	0.4	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	93.1	0.0	2.6	2.6	1.7	100.0
父日本、母中国	91.5	0.0	3.5	3.5	1.4	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	89.8	1.0	6.8	0.5	1.9	100.0
両親韓国・朝鮮	92.4	0.0	3.8	3.8	0.0	100.0
両親中国	79.5	1.4	11.0	6.8	1.4	100.0
その他	91.5	0.4	3.1	4.6	0.4	100.0
計	92.1	0.1	3.8	3.5	0.4	100.0

表 16 保育者(子ども 4 歳)

	母親	父親	祖父母	保育所	幼稚園	その他	Total
両親日本	40.9	0.3	2.5	34.6	21.5	0.2	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	45.9	1.2	3.5	28.2	21.2	0.0	100.0
父日本、母中国	57.7	3.6	0.0	23.4	15.3	0.0	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	50.8	4.2	5.1	22.0	16.1	1.7	100.0
両親韓国・朝鮮	52.9	0.0	0.0	19.6	27.5	0.0	100.0
両親中国	47.5	0.0	5.0	35.0	12.5	0.0	100.0
その他	44.2	1.2	1.8	34.4	17.8	0.6	100.0
計	41.1	0.3	2.5	34.5	21.5	0.2	100.0

子どもをもって負担に思うことは何かたずねた結果が「表 17 育児負担(子ども 0 歳)」である。回答のうち上段が回答者全体、下段が回答者が母親の結果である。これをみると、親の国籍による大きな違いは見出せない。ただし、「回答者が母親」についてみると、「父日本、母タイ・フィリピン」で「子育てで出費がかさむ」や「仕事が十分にできない」、「両親中国」で「仕事が十分にできない」など、項目によってやや育児の負担が重いように見て取れる。

表 17 育児負担(子ども 0 歳)

	両親日本	父日本、母韓国・朝鮮	父日本、母中国	父日本、母タイ・フィリピン	両親韓国・朝鮮	両親中国	その他	計
子育てによる身体の疲れが大きい	39.8	41.7	49.3	34.0	46.8	59.7	36.2	39.8
回答者が母親	39.3	39.5	55.4	50.0	48.5	59.2	34.4	39.3
子育てで出費がかさむ	34.7	34.8	44.2	54.2	41.6	50.0	36.2	34.8
回答者が母親	34.1	36.0	46.4	71.4	42.6	51.0	34.4	34.2
自分の自由な時間が持てない	55.7	59.1	62.3	36.0	51.9	61.1	52.7	55.6
回答者が母親	55.5	59.3	60.7	50.0	51.5	63.3	52.2	55.5
夫婦で楽しむ時間がない	24.6	24.3	32.6	25.6	28.6	27.8	29.2	24.7
回答者が母親	23.2	22.1	26.8	28.6	27.9	26.5	27.2	23.2
仕事が十分にできない	12.0	15.7	24.6	10.8	15.6	38.9	16.9	12.1
回答者が母親	12.1	19.8	26.8	35.7	13.2	42.9	17.0	12.3
子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	5.8	5.2	9.4	3.9	9.1	9.7	7.3	5.8
回答者が母親	5.9	7.0	14.3	0.0	10.3	10.2	7.6	6.0
子どもが病気がちである	3.4	2.6	8.7	5.4	6.5	15.3	3.5	3.5
その他	6.0	5.2	3.6	2.0	3.9	1.4	3.5	5.9

次に「表 18 育児負担(子ども 3 歳)」の「回答者が母親」についてみると、「父日本、母中国」では、「子育てによる身体の疲れが大きい」が 48.3%、「自分の自由な時間が持てない」が 58.3%、「配偶者が育児に参加してくれない」15.0%、「仕事や家事が十分にできない」30.0%、「子どもを一時的に預けたい時にあずけ先がない」16.7%と、項目によってやや負担が重いように見て取れる。

「表 19 育児負担(子ども 5 歳)」の母親の育児負担をみると、「父日本、母中国」は、「子育てによる身体の疲れが大きい」「自分の自由な時間が持てない」「仕事や家事が十分にできない」、「両親韓国・朝鮮」で「子育ての出費がかさむ」、「両親中国」で「仕事や家事が十分にできない」「子供を一時的に預けたいときにあずけ先がない」など、項目によって相対的に重いようにみとれる。

表 18 育児負担(子ども 3 歳)

	両親日本	父日本、母韓国・朝鮮	父日本、母中国	父日本、母タイ・フィリピン	両親韓国・朝鮮	両親中国	その他	計
子育てによる身体の疲れが大きい	30.5	38.7	44.2	19.9	30.7	44.4	29.6	30.6
回答者が母親	30.5	35.5	48.3	25.0	33.3	43.3	30.9	30.6
子育てで出費がかさむ	31.9	29.0	35.0	44.3	32.3	24.4	24.0	31.9
回答者が母親	31.8	30.3	35.0	58.3	31.5	20.0	24.2	31.7
自分の自由な時間が持てない	53.4	51.6	59.2	35.9	54.8	42.2	55.9	53.4
回答者が母親	53.4	50.0	58.3	50.0	53.7	40.0	55.2	53.4
配偶者が育児に参加してくれない	7.0	5.4	8.3	2.3	14.5	6.7	7.3	7.0
回答者が母親	7.3	6.6	15.0	0.0	16.7	10.0	7.9	7.3
しつけのしかたが家族内で一致していない	12.0	7.5	15.0	15.3	9.7	8.9	18.4	12.0
回答者が母親	12.1	9.2	11.7	16.7	11.1	13.3	18.8	12.2
仕事や家事が十分にできない	20.2	25.8	23.3	14.5	25.8	26.7	27.9	20.2
回答者が母親	20.4	27.6	30.0	8.3	27.8	26.7	29.1	20.5
子どもについてまわりの目や評価が気になる	8.4	9.7	4.2	4.6	1.6	0.0	10.6	8.4
回答者が母親	8.7	10.5	8.3	16.7	1.9	0.0	11.5	8.7
目が離せないのが気が休まらない	15.2	16.1	31.7	22.9	11.3	20.0	21.8	15.3
回答者が母親	14.8	17.1	26.7	33.3	11.1	20.0	22.4	14.8
子どもをもつ親同士の関係がうまくいかない	1.6	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	1.6
回答者が母親	1.6	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.6
子どもを一時的に預けたい時にあずけ先がない	11.2	16.1	15.0	16.0	9.7	13.3	10.6	11.2
回答者が母親	11.2	14.5	16.7	8.3	9.3	20.0	11.5	11.3
子どもが言うことを聞かない	27.8	20.4	29.2	22.9	14.5	15.6	32.4	27.8
回答者が母親	28.0	18.4	30.0	16.7	16.7	20.0	32.1	27.9
子どもが病気がちである	3.9	7.5	6.7	9.2	4.8	11.1	5.0	4.0
回答者が母親	3.9	9.2	8.3	0.0	5.6	10.0	4.9	3.9
子どもが急病の時診てくれる医者が近くにいない	3.5	1.1	8.3	5.3	6.5	6.7	5.6	3.5
回答者が母親	3.4	0.0	10.0	0.0	5.6	3.3	6.1	3.5
子どもの成長の度合いが気になる	7.7	14.0	11.7	12.2	4.8	2.2	8.4	7.7
回答者が母親	7.3	14.5	11.7	8.3	3.7	0.0	7.9	7.3
しつけのしかたがわからない	7.4	7.5	10.0	3.8	4.8	6.7	10.1	7.4
回答者が母親	7.5	6.6	10.0	0.0	5.6	10.0	10.3	7.5
気持ちに余裕をもって子どもに接することができない	23.2	20.4	13.3	7.6	25.8	4.4	26.3	23.1
回答者が母親	23.8	19.7	16.7	0.0	27.8	6.7	27.9	23.8
子どもを好きになれない	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.4
回答者が母親	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.4
こどもが保育所・幼稚園に行きたがらない	2.5	1.1	0.8	2.3	0.0	4.4	2.2	2.5
回答者が母親	2.5	1.3	0.0	0.0	0.0	6.7	2.4	2.5
その他	3.4	2.2	1.7	3.1	1.6	2.2	3.4	3.4
回答者が母親	3.6	2.6	1.7	8.3	1.9	3.3	3.0	3.5
N	40,014	93	120	131	62	45	179	40,644
回答者が母親	37,135	76	60	12	54	30	165	37,532

表 19 育児負担(子ども 5 歳)

	両親日本	父日本、母韓国・朝鮮	父日本、母中国	父日本、母タイ・フィリピン	両親韓国・朝鮮	両親中国	その他	計
子育てによる身体の疲れが大きい	24.5	28.9	29.0	20.0	30.0	28.2	25.0	24.5
回答者が母親	24.4	25.4	35.7	12.5	31.8	18.5	26.4	24.4
子育てで出費がかさむ	43.3	43.4	43.9	48.6	46.0	38.5	32.6	43.2
回答者が母親	43.4	41.3	42.9	37.5	50.0	44.4	34.1	43.4
自分の自由な時間が持てない	38.3	43.4	55.3	24.8	40.0	43.6	39.6	38.4
回答者が母親	38.2	42.9	53.6	0.0	40.9	37.0	40.3	38.2
配偶者が育児に参加してくれない	6.5	6.0	11.4	2.9	10.0	12.8	6.3	6.5
回答者が母親	6.8	6.4	14.3	12.5	11.4	18.5	7.0	6.8
しつけのしかたが家族内で一致していない	11.7	15.7	15.8	12.4	8.0	15.4	15.3	11.7
回答者が母親	11.7	15.9	10.7	12.5	9.1	18.5	15.5	11.7
仕事や家事が十分にできない	16.6	20.5	27.2	11.4	18.0	25.6	23.6	16.6
回答者が母親	16.8	20.6	33.9	0.0	18.2	33.3	24.8	16.8
子どもについてまわりの目や評価が気になる	8.8	3.6	4.4	1.9	6.0	2.6	13.2	8.7
回答者が母親	8.9	0.0	5.4	0.0	4.6	3.7	14.0	8.9
目が離せないので気が休まらない	6.6	10.8	14.9	9.5	10.0	7.7	11.1	6.7
回答者が母親	6.4	7.9	21.4	0.0	9.1	3.7	10.9	6.5
子どもをもつ親同士の関係がうまくいかない	2.6	3.6	0.9	1.0	0.0	0.0	2.8	2.6
回答者が母親	2.7	1.6	1.8	0.0	0.0	0.0	3.1	2.7
子どもを一時的に預けたいときにあずけ先がない	10.7	18.1	18.4	15.2	14.0	23.1	9.0	10.7
回答者が母親	10.7	17.5	17.9	12.5	11.4	25.9	9.3	10.7
子どもが言うことを聞かない	19.5	19.3	23.7	16.2	18.0	20.5	25.0	19.6
回答者が母親	19.5	15.9	19.6	25.0	20.5	25.9	24.0	19.5
子どもが病気がちである	3.6	2.4	8.8	5.7	4.0	12.8	2.1	3.6
回答者が母親	3.5	3.2	12.5	0.0	4.6	11.1	2.3	3.6
子どもが急病のとき診てくれる医者が近くにいない	4.0	3.6	9.7	7.6	6.0	5.1	7.6	4.0
回答者が母親	3.9	4.8	5.4	12.5	6.8	3.7	7.0	3.9
子どもの成長の度合いが気になる	7.9	7.2	9.7	7.6	6.0	5.1	8.3	7.9
回答者が母親	7.7	4.8	7.1	0.0	6.8	0.0	7.8	7.7
しつけのしかたがわからない	6.1	3.6	13.2	2.9	2.0	10.3	3.5	6.1
回答者が母親	6.2	1.6	7.1	0.0	2.3	7.4	3.1	6.1
気持ちに余裕をもって子どもに接することができない	24.5	16.9	14.9	6.7	16.0	10.3	27.1	24.3
回答者が母親	24.8	19.1	17.9	0.0	18.2	7.4	27.9	24.8
子どもを好きになれない	0.4	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.4
回答者が母親	0.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4
こどもが保育所・幼稚園に行きたがらない	1.5	3.6	2.6	1.0	4.0	7.7	2.1	1.5
回答者が母親	1.5	1.6	1.8	0.0	4.6	11.1	1.6	1.5
その他	3.5	1.2	0.9	0.0	0.0	5.1	5.6	3.5
回答者が母親	3.6	1.6	1.8	0.0	0.0	3.7	6.2	3.6
N								
回答者が母親								

6. 教育の状況

「表 20 勉強時間」をみると、「30 分～1 時間未満」「1 時間～2 時間未満」の割合が多い。「両親中国」では、「しない」が相対的に多く 6.1%であるが、「4 時間～5 時間未満」も 6.1%と多い。

表 20 勉強時間

	しない	30分 未満	30分 ～1時 間未満	1時間 ～2時 間未満	2時間 ～3時 間未満	3時間 ～4時 間未満	4時間 ～5時 間未満	5時間 以上	計
両親日本	1.3	16.5	45.0	31.5	4.7	0.8	0.2	0.0	100.0
父日本、母韓国・朝鮮	2.9	17.1	31.4	32.9	12.9	2.9	0.0	0.0	100.0
父日本、母中国	2.2	13.5	37.1	36.0	7.9	3.4	0.0	0.0	100.0
父日本、母タイ・フィリピン	5.7	26.1	37.5	27.3	2.3	1.1	0.0	0.0	100.0
両親韓国・朝鮮	2.4	11.9	47.6	31.0	2.4	4.8	0.0	0.0	100.0
両親中国	6.1	12.1	27.3	33.3	12.1	3.0	6.1	0.0	100.0
その他	4.7	15.0	42.5	31.5	6.3	0.0	0.0	0.0	100.0
計	1.4	16.5	44.9	31.5	4.7	0.8	0.2	0.0	100.0

「表 21 塾等に通っている割合と費用（平均額）」をみると「両親中国」が 54.5%と最も高く、次いで「父日本、母韓国・朝鮮」で 52.9%、「父日本、母中国」で 47.3%である。費用（平均額）をみると「父日本、母韓国・朝鮮」が 12.1 千円で最も高く、次いで「父日本、母中国」9.4 千円、「両親中国」9.3 千円の順である。

表 21 塾等に通っている割合と費用（平均額）

	塾等の割合	平均金額
両親日本	45.7	5.5
父日本、母韓国・朝鮮	52.9	12.1
父日本、母中国	47.3	9.4
父日本、母タイ・フィリピン	21.6	3.0
両親韓国・朝鮮	40.5	7.6
両親中国	54.5	9.3
その他	41.7	5.6
計	45.6	5.6

最後に、子ども、父母それぞれの読書習慣についてみる。「表 22 読書習慣（子ども）」をみると、「両親日本」の場合は、「2、3 冊」が 31.9% 「4～7 冊」が 20.6%の順に多く「読まない」は 10.3%であるが、「父日本、母タイ・フィリピン」は「2、3 冊」が 32.9% 「1 冊」が 23.2%、「読まない」が 18.3%となっている。

表 22 読書習慣（子ども）

	読まない	1冊	2、3冊	4～7冊	8～11冊	12冊以上	計	(N)
両親日本	10.3	19.7	31.9	20.6	6.9	10.7	100.0	32,269
父日本、母韓国・朝鮮	10.8	21.5	21.5	23.1	10.8	12.3	100.0	65
父日本、母中国	9.3	32.6	25.6	18.6	8.1	5.8	100.0	86
父日本、母タイ・フィリピン	18.3	23.2	32.9	11.0	6.1	8.5	100.0	82
両親韓国・朝鮮	11.9	19.0	38.1	21.4	7.1	2.4	100.0	42
両親中国	14.3	17.9	39.3	17.9	10.7	0.0	100.0	28
その他	14.5	14.5	38.7	13.7	10.5	8.1	100.0	124
計	10.3	19.7	31.9	20.6	6.9	10.6	100.0	32,696

「表 23 読書習慣（父）」「表 24 読書習慣（母）」はともに、国籍によらず「読まない」が最も多い。特に「読まない」の割合が多いのは、「父日本、母タイ・フィリピン」の母が 77.8%、「両親中国」の父が 60.9%である。ただし「両親中国」は「12冊以上」が父では 13.0%、母は 3.8%と相対的に多い。

表 23 読書習慣（父）

	読まない	1冊	2、3冊	4～7冊	8～11冊	12冊以上	計	(N)
両親日本	52.7	19.0	17.3	6.9	1.9	2.3	100.0	28,778
父日本、母韓国・朝鮮	51.6	21.0	21.0	1.6	3.2	1.6	100.0	62
父日本、母中国	47.4	34.6	12.8	1.3	1.3	2.6	100.0	78
父日本、母タイ・フィリピン	50.0	26.3	15.0	6.3	1.3	1.3	100.0	80
両親韓国・朝鮮	42.9	28.6	20.0	5.7	2.9	0.0	100.0	35
両親中国	60.9	13.0	8.7	4.3	0.0	13.0	100.0	23
その他	48.4	24.2	16.8	7.4	3.2	0.0	100.0	95
計	52.6	19.1	17.3	6.9	1.9	2.3	100.0	29,151

表 24 読書習慣（母）

	読まな い	1冊	2、3冊	4～7 冊	8～11 冊	12冊 以上	計	(N)
両親日本	45.7	26.9	17.9	6.0	1.5	2.0	100.0	31,602
父日本、母韓国・朝鮮	53.1	21.9	17.2	3.1	1.6	3.1	100.0	64
父日本、母中国	54.5	23.4	15.6	5.2	0.0	1.3	100.0	77
父日本、母タイ・フィリピン	77.8	11.1	9.7	0.0	0.0	1.4	100.0	72
両親韓国・朝鮮	43.2	40.5	5.4	8.1	2.7	0.0	100.0	37
両親中国	38.5	30.8	15.4	7.7	3.8	3.8	100.0	26
その他	45.7	20.7	19.8	7.8	2.6	3.4	100.0	116
計	45.8	26.9	17.9	6.0	1.5	2.0	100.0	31,994

7. 終わりに

本稿では、「21 世紀出生時縦断調査」の結果から、在日外国人の家族の状況、子育ての状況、教育の状況を見てきた。終わりに、本稿の意義と限界を述べる。

親の国籍によらず、世帯類型では夫婦のみの世帯、子ども 0 歳児の保育者は母親、母の労働時間なし、の割合が多く、母の就業形態が常勤である割合は全体的に低かった。親の国籍によらず、子どもが 0 歳時の主な保育者は、専業主婦の母親の割合が多いと推測される。このことがあって育児負担については、母の国籍によって負担感が相対的に重いと思われる項目はあるものの、親の国籍の組み合わせによる大きな違いはみられなかった。

一方、親の国籍の組み合わせによる違いが大きいと思われるのは、父の就労状況、「常勤」や「パート・アルバイト」の割合、両親の所得である。「両親日本」は、相対的に「常勤」の割合が高く、所得も多い。「両親中国」は、父の「常勤」の割合が低く、「パート・アルバイト」の割合が高く、所得が少ない。これは、「両親中国」の学歴が「大学・大学院」と「中学」に二極化された状況を反映していると思われる。

以上のように、親の国籍の組み合わせによって、収入と就労の状況に違いはあるものの、育児の負担感については大きな差がみられない。このことには、本稿で用いたデータの制約が大きく影響していると考えられる。すなわち、ブラジル国籍の外国人を捕捉できておらず、調査回答者は、相対的に日本での居所・生活が安定していて、日本社会に包摂されている、日本語の読み書き能力の高い人が多いと思われる。

この限界は大きいですが、最初に述べたように、従来明らかにされてこなかった外国人の生活実態の一端を論じた意義は大きいと考える。

<参考文献>

石井由香（2003）『移民の居住と生活』明石書店.

大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人（2011）「家族・ジェンダーからみる在日外国人：2000年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44:11-25.

駒井洋編（1997）『新来・定住外国人がわかる事典』明石書店.

志水宏吉・清水陸美編著（2001）『ニューカマーと教育：学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって』明石書店.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人、鍛冶致（2013a）「2005年国勢調査にみる在日外国人の仕事」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』35:39-58.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人、鍛冶致（2013b）「2005年国勢調査にみる外国人の教育——外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』35:59-76.